

序

平成 29 年 4 月 1 日
医学科長 池田 徳彦

医学の進歩は急速であり、新たな発見が臨床応用され、標準的な診療になるのに多くの年数を要しなくなりました。これらは修得すべき最新の知識となるため、従来からの普遍的な事項と合わせると医学生の身に付けるべき内容は質、量ともに年々増加しています。講義で学ぶだけでなく病態から深く理解し、知識として定着するには「自主自学」の姿勢が必要となってきます。

教育プログラムは進化し、環境の整備も年々進んでいきます。系統的な講義も少人数制に移行が進み、指導者と学生で議論しながらの双方向型教育が主流となってきています。習うだけでは不十分で、積極的に学び議論する中で自らを成長させていくことを習慣化してください。

一般教育においてはリベラルアーツを身に付け、多様性のある思考力や幅広い視野を養いますが、同時に人格や倫理観も身につけていきます。専門教育においては基礎医学と臨床医学を一元的に学ぶ内容となります。ICT（情報通信技術）の積極的導入により自主自学の機会は倍加し、支援は一層充実したものとなりました。

参加型臨床実習の時間数が大幅に増加し、講義や書物で学んだ内容を臨床で経験することで深い理解が得られるように計画されています。「診療に参加する」前向きな意識を持つように心掛けてください。

医学生として学ぶと同時に、生涯学習が開始したという意識を持ち、品格、協調性、コミュニケーション力、国際性の涵養も要求されます。修得すべきことは数多く多岐にわたりますが、大学は可能な限りのサポートをいたします。充実した医学への道のりとなることを祈念いたします。